取扱説明書・工事説明書・保証書

給湯加圧ポンプ　CP−80F

このたびは給湯加圧ポンプをお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書（安全上のご注意）をよくお読みの上、正しくお使いください。
また、保守・点検のために、大切に保管してください。

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。

⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

絵表示については次のような意味があります。

一般的な注意

一般的な禁止

必ず行なうこと

電源プラグをコンセントから抜け

必ずアース線を接続せよ

分解禁止

触れるな

⚠ 警告

配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って、安全・確実に行なってください。誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります。

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行なわないでください。発火したり、異常動作して、けがをするおそれがあります。

お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、ぬれた手で抜き差しをしないでください。感電やけがをすることがあります。
断水時には、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

通水せずに電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ポンプが回り、故障の原因になります。

アースを確実に取付け、専用の漏電遮断器を設置してください。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。アースの取付けは販売店にご相談ください。

ポンプカバーをはずしたまま使用しないでください。ほこりや絶縁劣化などで感電や火災のおそれがあります。

電源プラグの刃及び刃の取付け面にほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因になります。

⚠ 注意

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また重い物を載せたり挟み込んだり、加工したりすると電源コードが破損し、火災や感電の原因となります。

長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電・火災の原因になります。

ポンプやモーターに触れないでください。高温になっていますのでやけどのおそれがあります。

本品に 0.3MPa（3kgf/cm²）以上の水圧をかけると危険です。故障の原因になります。

貯湯式給湯機の出湯側に給湯加圧ポンプを接続した場合、給湯機内部が負圧になり給湯機が破損するおそれがあります。負圧対策のため、給湯機と給湯加圧ポンプの間に必ず吸気弁を取付けてください。

給湯加圧ポンプに毛布や布などをかぶせたり、ポンプカバー内に燃えやすいものを入れないでください。過熱して発火することがあります。

床面が防水処理・排水処理されているか確認してください。水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。

動かなくなったり、異常がある場合は事故防止のため、すぐに電源プラグを抜いて、お買い求めの販売店に、必ず点検・修理を依頼してください。感電や漏電・ショートなどによる火災のおそれがあります。

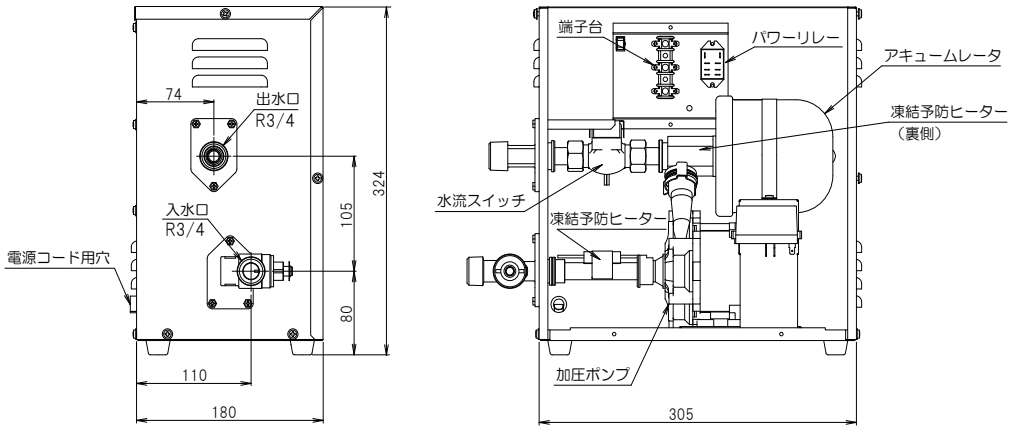
ポンプに乗ったり、腰掛けたりしないでください。

配管に手を触れないでください。温水が流れるため、高温になっているおそれがあります。

開こん

附　　属　　品	
部　　品　　名	数　　量
取扱説明書・工事説明書・保証書	1
保　温　材　セ　ッ　ト	1

各部のなまえ



お願い

1．給湯加圧ポンプの電源プラグは、昼夜の別なくコンセントへ差し込んでおいてください。ただし、断水時には必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
2．凍結のおそれがある場合は、防寒対策を十分にしてください。
3．急激に給湯用水栓、シャワーを止めたときに、配管内の水による衝撃（ウォーターハンマー）現象が起こる場合は、水撃防止装置を取付けてください。

ご使用方法

1．電源プラグをコンセントに差し込み、蛇口を開いて、ポンプが起動するのを確かめてください。
2．蛇口を完全に閉じてポンプが停止するのを確かめてください。

異常が生じた場合

サーマルプロテクターについて
この装置はモーターが異常に発熱して焼損するのを防止します。万一この装置が働いたときには、電源プラグを抜いて販売店（工事店）にご相談ください。

アフターサービス

補修部品供給期間について
補修部品の供給期間は、機器の製造年より 13 年間です。

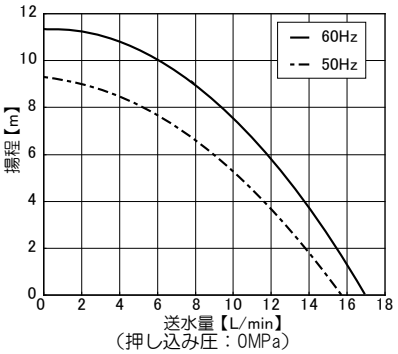
このようなときに

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくお読みの上、次の点検をしてください。
異常がある場合は、電源プラグを抜き、販売店（工事店）へご連絡ください。

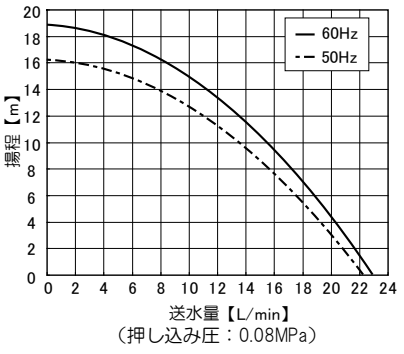
故障現象	原因	処置方法
ポンプが運転しない	電源が入っていない	電源を確実に入れる
	異常過熱によるモーターロック	修理を依頼する
	サーマルプロテクター作動	
ポンプは運転するが送水しない	羽根車に異物をかんでいる	
	ポンプがエアーロックしている	空気弁から空気を抜く
	ポンプに給水されていない	原因を調べて処置する
必要以外にポンプが回りだす	配管途中からの水漏れ	修理を依頼する
	逆止弁に異物をかんでいる	
ポンプが回り続けて止まらない	水流スイッチ、リレーの故障	交換を依頼する
	電圧低下による圧力不足	販売店（工事店）に相談する
	配管途中からの水漏れ	修理を依頼する
	ポンプがエアーロックしている	空気弁から空気を抜く
	断水	電源プラグをコンセントから抜く
ポンプが起動・停止を繰り返す	逆止弁に異物をかんでいる	修理を依頼する
	アキュームレータのガス圧不足、ダイヤフラムの破損	交換を依頼する

仕　様

型式名	ＣＰ－８０Ｆ
使用電源電圧	100 V　AC
電源周波数	50/60Hz
定格消費電力	89/121 W
定格電流	0.79/1.11 A
絶縁	Ｅ種
プロテクター	自動復帰型
水流スイッチ	3.0 L /min 以上ＯＮ
配管接続口（入口･出口）	20 A（3/4 B）
揚程	5.4/7.5 m（10 L /min）
送水量	10.6/12.8 L /min（５m）
その他の装置	凍結予防ヒーター（３℃　ＯＮ）



（押し込み圧：0MPa）



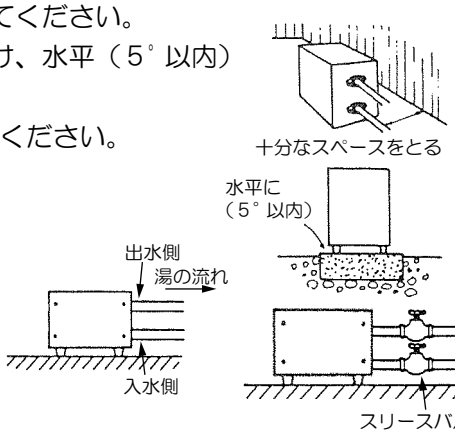
（押し込み圧：0.08MPa）

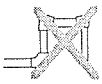
配線工事について

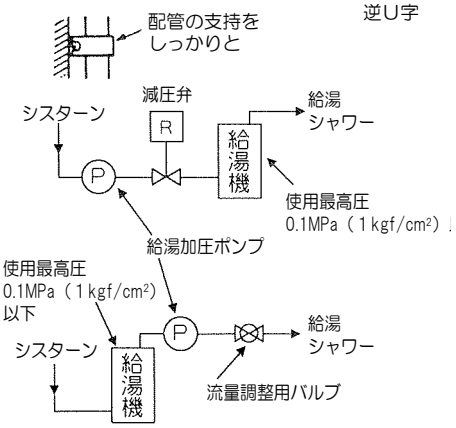
1．アース線をガス用の管に取り付けないでください。法律で禁じられています。
2．電源は専用のコンセントを使用してください。
3．電源の配線は、電圧が低下しないように行なってください。電圧があまり低いと電動機の故障の原因となります。据付けのときに電圧を確認してください。

据付・配管工事について

1．据付場所は保守・点検に便利な位置にしてください。
2．コンクリート・ブロックなどで基礎を設け、水平（5°以内）にしてください。
3．周囲温度が 40℃以下のところに据付けてください。
4．給湯加圧ポンプから給湯栓までの高さは、押上高さ以内にしてください。
5．配管材料はさびない材質のもので、銅管、ポリエチレン管、耐熱エンビ管などをご使用ください。また、必ず保温材を巻いてください。
6．湯の流れる方向を間違わないようにしてください。
7．配管の接続は保守・点検のためにスリースバルブを取付けてください。
8．逆U字の配管は避けてください。
9．配管はしっかりと固定してください。
10．最高使用圧力が 0.1MPa（1 kgf/cm²）以下の給湯機を通して給湯、シャワーを使用される場合は、給湯機の給水側に減圧弁を設けるか、又は給湯機の出湯側に本器を取付けてください。給湯機の出湯側に本器を取付けた場合には、本器の出水口に流量調整用バルブを設け、給湯機が負圧になり吸気弁より空気を巻き込まないように調整してください。



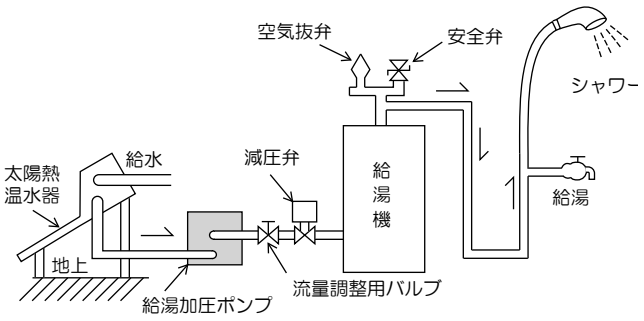




ワンタッチレバー水栓使用時に、ウォーターハンマーがポンプにかかるおそれのある場合は、水撃防止器（市販品）を設置してください。

配管例 1

●水道に直結するときは、給湯機の一次側に減圧弁を取付けてください。また、0.3MPa（3 kgf/cm²）以上の異常圧が給湯加圧ポンプにかからないようにしてください。

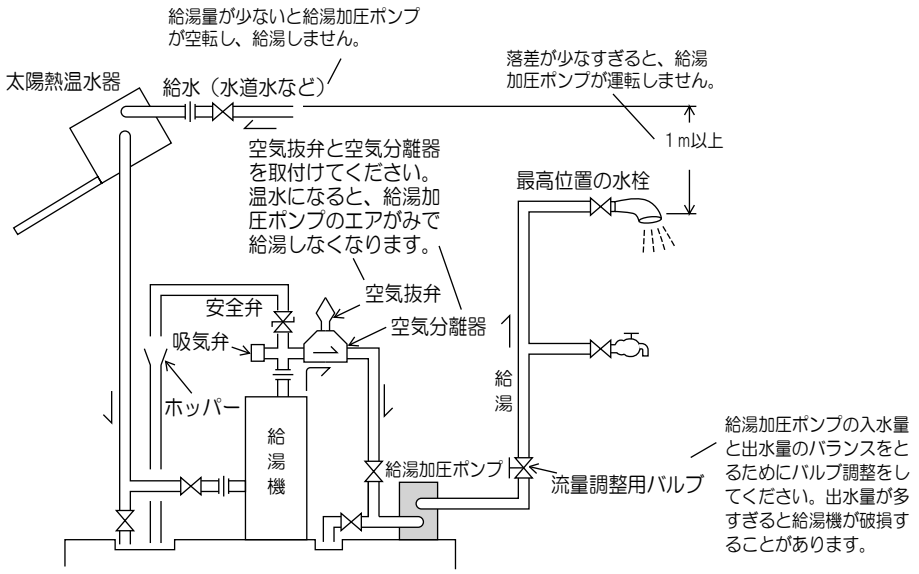


●太陽熱温水器に接続するときは、太陽熱温水器への給水能力が、給湯加圧ポンプの出水能力以下ですと空気を巻き込み出水不能になります。この場合は、給湯加圧ポンプの出口に流量調整用バルブ（別売）を取付けて出水量を調整してください。

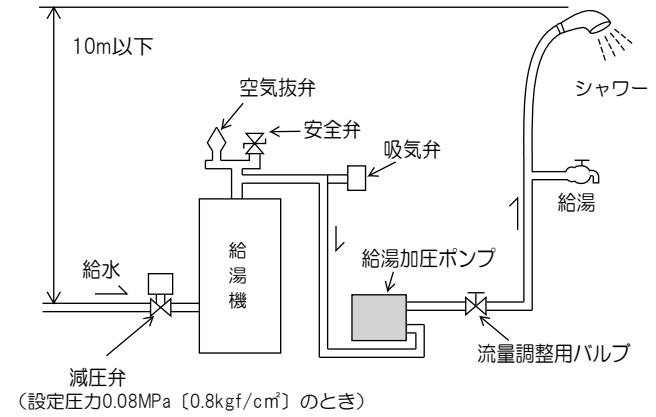
●配管工事は、各地の水道局の規定に従ってください。

配管例 2

●給湯機の出湯側に給湯加圧ポンプを設置する場合は、給湯加圧ポンプに十分な給水量を確保できるように、給水能力、給湯機の容量、配管径を選定してください。



（注） ウォーターハンマーが予測される場合は、水撃防止器（ショックベント）などを取付けてください。



（注） 上記配管例に記載の部品（安全弁、吸気弁など）はすべて別売となります。

※ 揚程と送水量のめやすは４ページの性能曲線グラフを参照してください。

防寒対策

凍結のおそれがある場合には、必ず防寒対策をしてください。

1．配管には、フェルト、グラスウールなどの保温材を巻きつけてください。
2．ポンプには、凍結予防用のヒーターが取付けてあり、サーモスタットにより周囲温度が３℃になると自動的にＯＮになります。
3．長期間ご使用にならない場合や、電源を抜いて放置される場合は配管内の水を抜いてください。

断熱対策

温水用として給湯加圧ポンプを使用する場合は、継手部分が高温になるおそれがあります。付属の保温材セット及びパイプガード（別売）などで必ず断熱対策をしてください。